

おいしいちゃんとお米

伊勢ヶ丘小学校5年 高林 孝太郎

ぼくのおいしいちゃんは農家をしています。

広い畑でお米と野菜作りをしています。しか

し、今年からお米作りを止めしまいました。

お米作りをしている時はぼくもぼくのお父

さんも毎年のようにお手伝いをしておい

くの畑へ行っていました。田植えがきれい

我にはしるうかくのいれ刈りをしておい

新米を食べるのがぼくの望みでした。でも

今年からお米づくりをしなくなりました。その

しみがたくなりました。ぼくはおい

いちゃんにうそをお米作りを止め

たのが野暮なりました。おいしいちゃん

はもうおいしいちゃんはやめたから作

たんじゃない

と答えました。お米作りはとも

大お父さん作

業で、田植えがいれ刈りだけい

なく、水の管理や肥料を手

取りのよいた

り、ぼくがお父さんがお米作りを

手伝っていました。

な。い時期も、さうは、手間をかけてお米
を大切に育ててきたそうです。お米作りは一
年を通して大変な作業なのだ。ぼくはこの時
知りました。

5年生の社会のじゆ業で、今の日本は高
い化が進み農業の数がつうつういること、
少く農家を始める人が少くないこと、洋食化に
よってお米を食べる人が、つうつういること、
学ば
ました。ぼくのおいさぐんの家も、農業を
するのば高れいのおいさぐんだけだし、後
つづもいぢいのお米が、くいをすめしかた
か、たのぢいと思つたことも、残念な言
持たにな
りました。

おいさぐんが、お米作りをすめるとは、さ
うだ。このお米は、お米は、すいぱい
びお米を
つうようになりました。今まで見るこ
このなか
つ、お米は、高
いした。

今年はお米のし、うかくかひない
うしい
お米が高い
なとい言、つういます。ぼくは今
までお米を食

バケあることは当たり前のことのように思っ
ていました。でも、お米かし。うわくごまこ
まひの道のり、農家の人が時間をかけたま
ごまったお米なのだと知って、ぼくはお米を
残すお米を食べようになつてきました。給食
でお米を残す人を見るときは、一生けん命に時間をか
けて作ってくれた農家の人に申しわけない言
毛ちに伝えます。お米を残さないためにま
はぼくがうまくなることからはじめたい。ま
すは食
べられることへの感謝です。そして、残さない
作ります。たまたまどかから、こいさ
たいたいと思
います。

「今までおいしいものが、人が一生けん命、大切に
育てたお米を食べることができたことは、幸せなことだ
つたと思います。今までです。てまいたいお米
を食べさせると、ぼくに大切なお米を言
かせると、お米がおいしい。人に感謝とおつか
れ、まよ伝えます。